

底生生物

曾根干潟では、年間を通じて300種以上の底生生物が確認されています。最も数が多いのがゴカイ類などの環形動物で、エビ類やカニ類などの甲殻類も多く見られます。干出しやすい場所ではヘナタリガイやアラムシロガイなどの巻貝が、沖寄りの場所では、数は多くありませんが、アサリやシオフキガイなどの二枚貝も見られています。

ヨシ原



シマヘナタリ
河口付近のヨシ原に生息しています。落ち葉や石の隙間で見られます。ヨシなどの茎に這るものもいます。



ハマガニ
大きなハサミをもっていますが、ヨシなどを食べる草食性です。甲殻全体に丸みがあり、紫色がかるきれいなカニです。



ハクセンシオマネキ
砂質干潟に群れで生息する種で、曾根干潟では河口の砂洲周辺に多く見られます。繁殖期に白いハサミを大きく振ります。

河口



クロベンケイガニ
ヨシ原の中でも陸地に近いところに生息しています。陸上生活に適応した種で、全体的に茶色みを帯び、大きくなると紫色がかります。



アシハラガニ
河口のヨシ原同様に生息している雑食性のカニです。甲殻は全体的に灰色で縁が黄みがかっています。



コメツキガニ
砂浜に生息する小さなカニです。貝穴の周りに砂刃子をつくり、生息している場所の砂の色に合わせて体色が異なります。

干潟



イトゴカイ類
小型のゴカイの仲間。有機物の多い泥の中に生息します。泥の中の有機物やバクテリアを食べ、浄化作用に大きく貢献しています。



オサガニ
曾根干潟の代表種です。ヤマトオサガニに比べると手籠が狭く、細長い形をしています。砂質の場所を好み、広範囲に生息しています。



ヘナタリガイ
曾根干潟で多く見られる巻貝で、高潮度の集団で生息しています。干潟表面のプランクトンを餌としています。成貝になると殻の入り口が外側に広がります。



ヤマトオサガニ
曾根干潟の代表種です。水分の多い軟泥質の環境を好み、夏の繁殖期にはオスが両手を振り上げるダンスをします。



アラムシロガイ
曾根干潟の代表種で広範囲で生息しています。背殻は砂の中に身を潜め、顔のおおいに反応して死肉などに集まる干潟の掃除屋です。



トビハゼ
泥上や水辺を飛びはねて移動。曾根干潟の河口付近で、干潮時にはエサをとり、満潮時には石の上などで休みます。



シオフキガイ
比較的砂の多い場所に生息する二枚貝です。色は白く、全体にふっくらと丸みのある形をしており、鳥やカブトガニなどの餌となります。



アサリ
砂質干潟に生息する二枚貝です。貝殻の模様や色に変化に富んでいます。

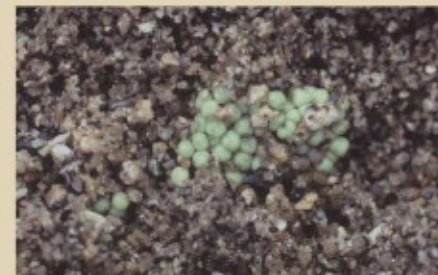
カブトガニ

カブトガニは、約2億年前から姿や形がほとんど変わらないため、「生きた化石」と言われています。ここ数十年の間に急激に減少し、絶滅の恐れのある生物(絶滅危惧I類)となっています。曾根干潟は国内有数の産卵・生息地で、毎年6~8月につがい(親ガニ)が河口の砂浜へ産卵にやってくる。卵がかえると「幼生」となり、砂浜よりも泥の多い沖寄りに生活の場を移します。干潟の中で脱皮を繰り返し、10年以上かけて成体になり、やがて沖合で暮らすようになります。

産卵・ふ化する場所
砂浜



産卵するカブトガニのつがい



砂中15~20cmの深さに産みつけられた卵塊

幼生の生息する場所
干潟・浅瀬



干潟を這って餌を探す6齢幼生



7齢から8齢へ脱皮した幼生

成体の生息する場所
沖合



曾根干潟での分布



カブトガニ産卵つがい数の経年変化

